

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 福岡県

【学校名】 福岡市立草ヶ江小学校

【テーマ】 I II III IV V

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

「すこやかな体」と「豊かな心」をもった草ヶ江っ子の育成
～オリンピック・パラリンピック教育を通して～

【実施学年、部、講座等】

第5学年（男子63名・女子61名）

【目的・ねらい】

- 自分に合ったインターバルを見つけ、3～5歩のリズムで走り越すことができる。 【技能】
- GTの話の聞いたり、指導を受けたりしながら、ハードル走（陸上運動）の学習への意欲を高めることができる。 【態度】

【種類】(当てはまるものに○)

- **各教科**(体育) ・道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間 ・特別活動
- ・教科以外での取組 ()

【実践内容等】

(実践内容)

今回の5年生ハードル走の実践にあたっては、オリンピック3大会連続出場という経歴があり、現在、順天堂大学スポーツ健康科学部准教授 山崎一彦（やまざきかずひこ）さんをGTとしてお迎えした。授業実践にあたっては、1コマ60分で学習内容を計画していった。

1 トークタイム【15分】



はじめに、15分間のトークタイムを設定した。ここでは、GTに御持参いただいた現役時代の映像を子どもたちに視聴させた。その後、GT御自身のアスリートとしての経験や体験などを話していただき、その後に子どもたちから質問を受けるという形で進めていった。「子どものころ負け続けたから頑張ることができた」「体の小さい自分を、少しでも大きく見せるために、良い姿勢を保つことを心がけた」など、子どもたちの印象に残る言葉を聞くことができた。

2 実技タイム【60分】

学習の場を運動場に移した後は、ハードル走の実技を行った。子どもたちにとっては、本時の学習が単元の導入にあたることから、子どもたちの実態を踏まえて、ハードルへの恐怖心を取り除くことや、リズムカルにハードルを越えていくことの楽しさを伝えること等、段階的に指導をしてくださった。山崎先生御自身が、お手本となる動きを見せながら、笑顔で楽しそうにハードルを走り越す姿を子どもたちに見せてくださったことが特に印象的であった。また、ハードルを走り越す動きが上手いかない子どもに優しく声を掛けたり、できるようになった子どもをしっかり褒めてくださったりする姿は、子どもたちにとって大変励みになるものだった。



3 第2時以降の学習

第2時からの学習では、GTが残してくださった「カッコいいハードラーになってください」という言葉を励みにしながら、子どもたちは学習に臨んでいる。自分の40m走の記録をもとに「めやすの記録」を設定し、それに向けて自分のハードリングの課題を解決しながら学習を進めていった。子どもたちの走りをタブレット型パソコンの動画機能で撮影し、その場で、視聴させることで、子どもたちは、自分の走りを客観的に見ることができ、良くなっている点や更なる改善点を見つけていくことができ、学習への意欲を高めている姿が見られた。



(実践上の工夫点、留意点等)

- ・今回は、単元の導入場面に合わせてGTを招聘した。そうすることで、子どもたちがやや苦手意識を持っていたハードル走の学習への意欲を高めていこうと考えた。
- ・実技指導の前にトークタイムを設定することで、子どもたちの（GTに抱くであろう）緊張感を緩和したいと考えた。

(成果)

○学習後のアンケートでは、表1のような結果であった。②と③の質問においては、「とてもそう思う」という回答が一番多かった。子どもたちにとっては、今回の学習は、ハードル走への意欲を高めるためには、十分な効果があったと考える。○①の質問については、Bと答えた児童が多くなっている。今回は、トークタイムの時間を15分しか確保することができず、子どもたちの「もっとGTのことやオリンピックのこと、ハードルのことを知りたい」という思いに十分に答えることができなかったことが要因と思われる。GTを招聘する際に、時間配分を含め、どのような授業を計画していくべきか考えていきたい。

表1 GTを招聘した学習後のアンケート結果

A: とてもそう思う B: そう思う C: そう思わない	A	B	C
①オリンピックやハードルへの関心が高まりましたか。	50%	48%	3%
②今日の学習で、体を動かすことの楽しさを味わうことができましたか。	80%	20%	0%
③ハードルをリズムカルに走り越すためのコツが分かりましたか。	68%	32%	0%

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

- GTを招聘する際は、GT本人との打ち合わせ（電話やメール等）が十分できるように、期日に余裕をもって授業実践を計画していきたい。
- 今年度の授業実践は、5年生で行った。オリ・パラの理念を全校の子どもたちに伝えるために、学校全体としてどのようなオリ・パラ教育を行っていくのかを来年度に向けて検討していきたい。